

## 国語 第5学年 文章に説得力をもたせるには 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。強い言い切りや情報の量だけで説得力を測らない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

### 第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「文章に説得力をもたせるには」 教材名「文章に説得力をもたせるには」

#### 2 単元の目標

文章の構成や展開について理解することができる。筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

#### 3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文章の構成や展開について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。（B(1)イ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

#### 4 指導上の考察

##### （1）単元について

主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。強い言い切りや情報の量だけで説得力を測らない。学習指導要領のB(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)カを、言語活動の中で確かめる。

##### （2）児童について（学級の実態を書く）

##### （3）指導について

教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。おおむね満足できる状況は、筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

#### 5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○文章の主張と理由を取り出す。事例がどの理由に対応するか確かめる。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。 評価：思①（発言・学習記録）

#### 6 本時の指導（2／2）

##### （1）本時の目標

筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えることができる。

## （２）学習過程

### 【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この事例は、どの理由を確認するために必要ですか」

【めあて】主張と理由・事例の関係を確かめ、筋道が通るよう文章全体を構成する。

予想される児童の反応：・主張と関係のない詳しい話が入っている。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

### 【展開】

学習活動：○「この事例は、どの理由を確認するために必要ですか」

構成を替えて読み比べる。目的に合う順序を選んで説明する。

主張・理由・事例の構成図、並べ替えた文章、変えた理由。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・主張と関係のない詳しい話が入っている。

・先に理由を示すと事例の意味が分かる。

・反対の考えへの説明も必要だと思う。

指導上の留意点：教師作成の短い提案文を主張・理由・事例に分け、矢印で対応させる。出典のない数値は足さず、児童が授業内で確認できる事実を使って構成を検討する。

想定するつまづき：根拠がないのに必ずと断定する、事例を多く入れて中心が曖昧になる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思①筋道が通るよう主張と理由・事例の関係を確かめ、文章全体の構成を考えている。（発言と学習記録）

### 【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・反対の考えへの説明も必要だと思う。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

## （３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この事例は、どの理由を確認するために必要ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)

[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

